

# 令和元年度第1回 仙台市社会福祉審議会地域福祉専門分科会 議事録

1 日時 令和元年8月7日（水）午後1時30分～午後3時50分

2 場所 仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室

## 3 出席者

[地域福祉専門分科会委員] 14名（委員定数15名）

阿部重樹委員・大瀧正子委員・小川登委員・折腹実己子委員・小岩孝子委員・島田福男委員・  
庄子清典委員・庄司健治委員・鈴木清隆委員・釣舟晴一委員・中田年哉委員・三浦啓伸委員・  
渡邊純一委員・渡邊礼子委員（五十音順）

※欠席委員：村山くみ委員

[事務局]

### ○健康福祉局

熊谷地域福祉部長・西山社会課長・和泉被災者支援担当課長・須藤保護自立支援課長・  
菅原障害企画課長・高橋障害者支援課長・白岩高齢企画課長・松本地域包括ケア推進課長

### ○区役所

大石青葉区保健福祉センター管理課長・佐竹宮城野区保健福祉センター管理課長・  
阿部若林区保健福祉センター管理課長・市川太白区ふるさと支援担当課長・  
斎藤太白区保健福祉センター管理課長・菊池泉区保健福祉センター管理課長

[オブザーバー]

○仙台市社会福祉協議会 岩渕地域福祉課長・大久保太白区事務所福祉推進係主任 CSW

## 4 内容

(1) 開会

(2) 委員紹介及び職員紹介

(3) 議事

### ①会長選出及び副会長の指名

- ・庄司健治委員が阿部重樹委員を会長に推薦。異議なく、阿部重樹委員が会長に選出される
- ・阿部会長より挨拶
- ・仙台市社会福祉審議会運営要領第3条第3項の規定により、会長が村山くみ委員を副会長に指名

### ②第3期仙台市地域保健福祉計画の評価について

- ・議事録署名人について、小川登委員を指名
- ・資料1に基づき社会課長から説明

## <質疑応答>

### 【庄子清典委員】

1 点目、7 ページ「災害に強い地域づくり」の中で、高齢者については地域包括ケアシステムの推進の観点からいろいろと地域において整備が進められているところだと思うが、障害をお持ちの方や子育てその他支援の必要な方々に対する平常時の施策はどうなっているのか。2 点目、8 ページも関わるが、子育てや障害支援について。先ほど妊娠期や子育て期における医療機関との連携があったが、そのほかで子育てや障害者支援における相談機関がどうなっているのか。3 点目、ひきこもり支援の中には就労支援も入ってくると思うが、就労支援の状況について。

### 【社会課長】

まず 1 点目、高齢者以外、障害をお持ちの方や子育て期のご家族についての平常時の施策について。1 つご紹介するとすれば、7 ページの中の主な取り組みの成果の 2 つ目に、災害時要援護者情報登録制度がある。こちらは高齢者だけではなく、高齢者だと要介護・要支援の方や 65 歳以上の高齢者で一人暮らしの方、高齢者のみの世帯の方を対象としているほか、障害者手帳をお持ちの方、それから地域の支援が必要な方といった方々も対象としているものである。事前にお申込みいただき、非常時に地域の方から声かけや安否確認ができるように、平常時から備えておくというものである。登録いただくと、その情報を地域の民生委員や町内会、地区社会福祉協議会に提供し、名簿に掲載されている方について、訪問等によりその方の状況をお聞きし、どういった支援ができるのかということとを事前に把握しておく、というような取り組みである。

また 8 ページに関してのご質問は、子育て期や妊娠期の際に、相談機関についてどういったところがあるのかということだが、実は今年度中に、子ども子育てに関する本市の計画の改訂を予定しており、そちらで市民アンケートを行っている。その中で子育てに関する相談先としてでてきたのが、例えば区役所の家庭健康課等の窓口、それから地域の方で民生委員、児童館、保育所などといったところが掲げられていた。正直、仙台市の子育て関連窓口というものがそれほど多くはない回答だった。5%くらいの数字だったが、そのあたりは何かあれば気軽に相談できるよう周知や情報提供を図っていく必要があるのかなと思っている。今後、策定していく計画の中でも、そのあたりのことを触れていくと思われるため、情報提供させていただきながら進めてまいりたい。

3 点目のひきこもり者の就労支援については、障害者支援課長より回答する。

### 【障害者支援課長】

ひきこもりの方の就労支援についてだが、すぐに就労の体験をするというところには至らないため、その方の回復の段階に応じて、まずは緩やかな、例えば草取りや簡単な掃除などボランティアに近いような活動から、段々と実際の仕事の体験といったところに、先に回復した方と一緒にグループで出かけて体験するといった機会をもつ。その後に単独で企業への就労体験を行うなど、段階的な形でその方の状態に応じた支援を進めているところである。

また 2 点目の質問で、障害者の相談体制のこともあったと思うが、大きく窓口としては 3 種類ある。1 つは区役所の障害高齢課。こちらは制度やサービスの利用申請窓口ともなっており、総合的な相談窓口である。2 つ目として障害者相談支援事業所。こちらは委託で行っているのが 16 ケ所と、

そのほかに指定しているところが 40 ケ所位である。委託のところは相談員が 3 名から 4 名の配置であり、基本的な相談を広く受け止めているが、指定のみの相談支援事業所については、相談員が 1 人だけの事業所というのが多く、そちらは高齢者というケアプランを作るようなサービスの利用計画を作る仕事を中心にやっている。3 つ目としては仙台市の専門相談機関だが、はあとぽーと仙台や南北のアーチル、ウェルポート仙台などがあり、こちらは障害者手帳の判定業務等を含め相談支援を実施している機関である。以上が障害者の相談支援体制である。

#### 【折腹委員】

8 ページの自己評価の上から 3 つ目、「地域包括支援センターを 2 か所新設し、全 52 か所の地域包括支援センターで、機能強化専任職員による地域のネットワークづくりや、包括圏域会議の継続的な開催等による地域における話し合いの場づくりを進めた」という記載について。地域包括支援センターが 52 か所あり、そこに一人ずつ機能強化専任職員がおり、いろいろな取り組みを一生懸命行っているところであるが、これについては評価をいただいたと受け止めてよろしいのか。地域包括支援センターに置かない方がよかったということでは決してないと思うが、そのあたりの確認が 1 点。

それから 9 ページ、①で「できなかった」と評価をされていた、38 ページのボランティアセンターによる地域福祉推進のための企業との連携事業について。連携があまりできなかったと先ほど説明があったが、その中で「連携の質をもっと上げていきたい」という説明をしていたが、具体的な、今後に向けての連携の方法や取り組みの方向性についての考えを伺う。

#### 【阿部会長】

1 点は 8 ページの 3 つ目の機能強化専任職員の配置について。「成果」とあることは積極的に評価いただいていると理解してよろしいのかという確認。もう 1 点目は 9 ページのところで「できなかった」という 1 件。ボランティアセンターで企業との連携があまりよくいかなかったと自己評価されているが、今後に向け、こういう実態をふまえて質的な評価、強化を図っていくという説明があったが、具体的に何か考えていることがあるならばお教え願いたいということ。以上 2 点について事務局いかがか。

#### 【地域包括ケア推進課長】

1 点目についてだが、仙台市では地域包括ケアシステムの構築を日常生活圏域単位、仙台市においては中学校区を単位としている。現在本市には 64 の中学校区があり、地域包括ケアシステム構築の中核として地域包括支援センターを位置づけている。現在 52 か所あり、各センターでは、地域に入り、地域の課題や地域の関係づくりに大変尽力いただいております、積極的に評価しているところである。これからは各センターをいかに区役所・市役所としてさらに支援していけるか検討してまいりたい。

#### 【社会課長】

続いて連携に関するご質問について。まず 38 ページの「ボランティアセンターによる地域福祉推

進のための企業との連携事業」について、庁内との連携ができなかったという回答をいただいているが、昨年度行った事業が、このシートの 5 番にある企業のアンケート調査や企業向けのセミナーの実施ということもあり、市役所の内部との連携がなかなか具体的にはなかったという意味での評価だと捉えている。逆に連携できた相手として、38 ページの(2)の連携相手だが、例えば学校・企業といったところも含めて連携できたと回答されている。この作成した報告書に基づき、令和元年度については、いろいろと取り組みを進めていくと聞いている。例えば地域や企業からのニーズの集約や、想定している連携・協働相手として仙台商工会議所や青年会議所などとの連携を図りながら、こういったことができるのかを考えていきたいと聞いている。

また連携の質を高めるという話について。こちらはこの事業単独についてというより、全体的な話として、連携相手の件数は確かに増えてきているが、質を高めていくことで単なる情報共有にとどまらず、例えば企画や実施などができるよう、より強い連携を求めていきたいと考えており、そういった趣旨で申し上げたものである。

#### 【庄司健治委員】

全体評価の 4 つ目、災害時要援護者の支援体制についてだが、支援体制の構築という点の状況や課題をどの程度把握しているのか。

#### 【社会課長】

災害時要援護者情報登録制度に基づき、市内約 1400 弱の町内会にリストをお渡しする際に、アンケートを一緒にお送りし、その結果を集計している。その中で、リスト自体はもらったがどのように活用していいかわからない、どういったかたちで支援者を見つけていけばいいのかわからないなど、なかなか支援者探しに苦勞しているというご意見を实际いただいているため、リストを配布するのみではなく、例えば他の地域の町内会でうまくいっている事例なども織り交ぜながらご紹介していくこと等を通して、地域の方で支援体制づくりを進めていただければと考えている。ご相談いただければ、時々あるが個別にご相談いただいた際に、アドバイザーの派遣や説明に伺ったりなどしながら、少しずつではあるがこういった制度の周知や支援を図っていきたいと考えている。

#### 【庄司健治委員】

今の回答は消極的な回答の気がする。相談を受けたら対応するということだが、私の記憶では確か平成 20 年ちょっと前、近い将来宮城県沖地震が高い確率で発生するだろうということで、健康福祉局が中心となって要援護者名簿の、あのときは災害対策基本法の改正の少し前だったと思うが、取り組んでおり、その調査も民生委員が依頼を受けたが、あの時は大々的に地域の支援体制の取り組みをしてほしいということで、パンフレットを作っていただし、進めていただいた記憶があるが、震災後、その意識が薄れてきたのではないかと。三日ほど前に震度 5 弱の地震があった時も、私も民生委員は名簿をいただき、常にそういう時は要援護者の安否確認を心掛けているが、今ご指摘あったように、どのように取り組んでよいのかわからない、どういう方がいるかわからない、名簿はいただいているが、その名簿については地区社協や包括、町内会や私どもが受けているが、それは地域での関係団体の連携を図りながら、支援体制の構築に取り組んでいかなければならないと思う

が、民生委員は町内会長などを超えて、なかなかそれは難しく、限界がある。したがってこれは市民局だと思うが、町内会長方にその辺をもう一度、周知を図っていただきたい。町内会、私のいる範囲、偏見かもしれないが、防災訓練とか、避難所運営については毎年のように一緒にやっているが、支援体制の構築については私からみて若干疑問というか、進まないところ、課題が指摘されたとおりである。3.11 のような地震がもう起こらない保障はなにもないため、地震だけじゃなく、今は自然災害、豪雨災害やゲリラ豪雨などいろいろあるため、それらに備えて、もう一度あの時に戻って、しっかり取り組んでいただきたいと、要望を含めて申し上げさせていただいた。

【阿部会長】

要望ということだったので、事務局よりコメントがあればお願いしたい。

【社会課長】

庄司委員からのお話の通り、なかなか進んでいない地域があり、ご意見をいただくことも多い状況である。庁内においても、改めてこれの活用や、これを踏まえた取り組みなど、再度充実させていけるように考えてまいりたい。

【阿部会長】

肝は連携体制を構築してというところだと思う。よろしくをお願いしたい。では釣舟委員。

【釣舟委員】

全体評価の3番目にCSWについての記載があったが、このCSW、ソーシャルワーカーという肩書の方だと思うが、住民主体の活動を側面から支援するといった話があったが具体的にどういうものか。後での報告でわかるのかもしれないが、住民主体の活動への具体的な実践例というのがもしあれば、ちょっとイメージができなかったため、お聞かせいただきたい。

【阿部会長】

事務局で迷っているのは、今ご質問にあった内容にかなり結びつく報告が、今日のプログラムの中で社協からおそらくあるため、それでよろしいのかということでのとまどいだと思う。

【釣舟委員】

ではその時にまた質問があればということで。

【阿部会長】

しかし今、釣舟委員がご質問されたような受け止め方もあるということ、少しさらに宿題にして、この後の報告を、その点に焦点をあてて報告していただくということでもよろしいか。  
では、渡邊委員。

【渡邊礼子委員】

4 ページ目の課題・今後の方向性のところの SBL について。SBL600 名を維持していくため、と書いてある下に、女性や若い世代、さらに地域間の活動人数のバランスという風に書いてあるが、このところを重視していただきたい。現在、私も SBL をやっているが、本当に皆さん高齢で、実際に災害が起きた時に活動できるのかという人たちがかなりいる。やはり若い世代、若い活動できる人たちにお願いするというと、ある程度募集の時に年齢の制限をしていかないと。講習会に行ったりすると、地域の役員の方や 80 過ぎの方たちが本当に多い。この制限を、できないかもしれないなるべくしていただき、若い世代の人に参加をしていただけるような施策を進めていただきたい。

それからもう 1 つ、別件になるがひきこもりについて。今回、障害者支援課で困りごとというマニュアルを作成されているが、私も早速うちの福祉委員さんに配るために 30 部いただき、ひきこもりの現状というのを皆さんに知ってもらおうかと思い、参考資料としてお渡した。本当に重大な課題なので、今後も続けていただきたいと感じている。

【阿部会長】

ひきこもりのほうに関しては質問ではないということによいか。

【渡邊礼子委員】

質問ではない。

【阿部会長】

このことは大変重要な案件なので、さらに引き続きよろしくお願ひしたいということ。それから SBL に関しては、指摘のとおり、高齢とは書いてないが、実働で 600 人の体制をとということなので、若い世代やそういう世代への働きかけが必要というのはそのとおりである、ということだったが、より具体的になか考えていることがあればという含みがおそらくあったと思うため、事務局より何かコメントをいただきたい。

【社会課長】

SBL について。個別の評価シート 13 ページをご覧くださいと、7 番の(2)に、今委員のおっしゃられたように、実際に SBL の高齢化、女性比率が低いところが課題として書かれている。これを所管している危機管理室でもこれは課題だと認識していると思われるので、今いただいたご意見をお伝えしたい。年齢制限を設けることまでできるのかはわからないが、どうやったら若い世代がこういった地域の活動に参画していけるか、SBL に限らない課題でもあるかもしれない。若い世代の地域活動への参画という視点もあり、危機管理室だけではない大きな課題だと認識している。庁内でも考えてまいりたい。

【阿部会長】

よろしいか。それでは、だいぶ時間も過ぎてきているため、この議題 1 の案件については、2 件直接的に関わるご質問、ご意見をいただいた。仙台市地域福祉専門分科会の案をお示しして、ご意見

をいただいていたところだが、基本的にこの案で公表するという事で、HPでの公表についてご了解いただきたいと思うがよろしいか。

【各委員】

―了承―

【阿部会長】

ありがとうございました。なお基本的にと申し上げたのは、庄司健治委員から要援護者支援体制づくりの取り組み等について、連携強化がやっぱり大切だということをおっしゃられたのと、釣舟委員から、ここには「CSWの活動についての理解の浸透が着実に図られてきている」とあるが、でもなかなかわからないというところの質問があったため、その辺への配慮が、限られたスペースだが、なにか考えられるようであれば、私と事務局で少し言葉を足させていただくかもしれないということで、お認めいただきたいと思う。

(4) 報告

①次期仙台市地域保健福祉計画の策定に向けて

・資料 2-1, 2-2, 別紙 1～3 に基づき社会課長より説明

<質疑応答>

【折腹委員】

資料 2-1 の裏面の「現状や課題の把握の方法」について。二つ目の「・」の説明で、仙台市成年後見人サポート推進協議会に設置する「成年後見制度利用促進部会」での議論を踏まえて、ということで、そこには弁護士会、司法書士会、社会福祉士会などが関係しているということで、その方々のご意見を聞いてということに、私は賛成で、是非積極的に行っていただきたいと思っている。宮城県社会福祉士会をやっているが、先月 15 日、海の日がソーシャルワーカーデーということで、ソーシャルワーカーの団体でハーネル仙台を会場に、実践報告会と弁護士によるその人の権利を守るための講演会を開いたりしたところだが、この弁護士会、司法書士会、社会福祉士会のほかにもソーシャルワークに関わる団体、例えば MSW 協会、PSW 協会、それから介護福祉士会、ケアマネジャー協会など、そういったところと連携しながら、このソーシャルワークを行っている方々とソーシャルワークの進展を図ろうという活動をしたところである。その中でもこの成年後見の利用促進については非常に重要だというお話も出ていたため、これが地域福祉計画の中で今回きちんと入ることは大変重要なことだと受け止めている。この利用促進部会の方々のご意見をとても期待している。

【会長】

説明にあった事務局が示した方針案、取り組み案について積極的に応援いただいたということなので、事務局からのコメントはよろしいか。では鈴木委員。

#### 【鈴木委員】

具体的な次期計画の策定は今後のことだと理解しているが、地域共生社会の実現に向けて、様々な福祉分野による共通して取り組むべき事項を盛り込むという趣旨からいうと、地域共生社会の実現に向けて課題だといわれている、縦割の施策や組織、これをどういうふうに横串をさしていくかというのが課題だろうと思っている。検討はこの委員会で、という意味では様々な部局に関連する委員の皆様が参加されているわけだが、一方で事務局体制をみると、今日の体制は基本的に健康福祉局という体制になっている。先ほど庄司委員からも話があった、例えば自治会の地域づくりの活動や児童の福祉の課題など、それらは仙台市の組織からいえば子供未来局や市民局になるため、協議をしていく上で、庁内での事前の摺合せや意識合わせ、協議の場というのをきちんとつくっていただいて、それを踏まえて我々が検討すべき素案みたいなものが組み立てられているというふうになっていないとだめなんだろうなと思っているため、そこは今後検討していくうえでよろしく願いたい。そういう意味で、この求められる取り組み、共通して取り組むべき事項の中の「タ」には「全庁的な体制整備」というのが含まれているため、そこも踏まえて考えていく必要があるのだろうと思っている。進め方も含め、よろしく願いたい。

#### 【阿部会長】

大変中核に迫る要望、ご指摘をいただいた。事務局、なにか今の時点でコメントがあれば。

#### 【地域福祉部長】

本日の審議会の事務局のメンバーの話しがでたが、全ての分野を網羅するためには職員は何人出席していても足りないということになるため、私どももある程度絞ったかたちとさせていただいている。そういう意味で今鈴木委員からあったように、事前の調整なり集約なりは進めてまいりたいと考えている。横串をさすという問題は今に始まったことではなく、従来から言われているが、これは連携のあり方そのものであろうと考えている。地域共生社会の話や包括的な支援体制というかたち上は出ているが、先ほど、最初のテーマの中で庄子清典委員から子どもの相談体制はどうなっているのかと話があったが、子供も障害も高齢も各区役所で総合相談という体制がとられている。さらにその中で、先ほど障害者支援課長からも話があったように、個別の委託している相談事業所や、子どもの方でいうと、保育所に地域子育て支援センターがあったり、児童館で相談を受けたりと、様々な場面での相談体制もとられているという状況にある。これを包括的支援体制だから全部まとめればいいのかということになると、それはそれで大きくなりすぎておそらく收拾がつかなくなってくるであろう。これまで積み重ねてきた専門的な知見をどう結び付けていくかというのが、横串をさすことであろうと思っている。そういう中で仙台市としての組織のあり方というのも議論されてくるのだらうと思っている。私どもとしても、この次期地域保健福祉計画は、新しい支え合いまち推進プランというふうにさせていきたいと考えている。ここにあるのは地域共生社会に掲げられる、支え手と受け手を固定させない、誰もが担い手になる活動、プレイヤーであるということを実現するためにどうすればいいのかということを考えている。それは一朝一夕でいくものではなく、ある意味スタートにのせるための準備だと、非常に消極的だといわれるかもしれないが、これまで積み重ねたものを新たなスタート台にのせるという視点でご議論をしていただきたい。



【阿部会長】

解釈だが、経緯を踏まえてなのでいきなり変えていくのは難しいが、舵をきりたいという趣旨だったと理解させていただきたい。市庁舎内の関係性、あるいはこの計画の策定にむけての関わり合い方については従来とは違い、どれほど具体的なかたちになるのか別にしても方向性、基本的な方針としては舵をきっていきたいということ、始まりだろうということによろしいか。部長もそのような理解でよろしいか。

【地域福祉部長】

ありがとうございます。

【庄子清典委員】

地域共生社会の実現に、国の言うように仙台市も向かっていくという前提でのお願いである。地域共生社会という言葉が出てきてから、いろんなところで福祉について議論をすると、かみ合わないことがいっぱいできてきている。例えば、地域福祉はいったい何なんだ、地域共生社会とどういう関係にあるんだ、高齢者については地域包括ケアシステムでやってきたじゃないか、今地域共生社会を導入して、いったいどういう関係になっていくんだ、ということが必ず出てくるわけである。この計画を策定していくにあたって、最低でもこの3つの、「地域共生社会」「地域福祉」そして今のところ高齢者だけに適用されている「地域包括ケアシステム」、この関係性を言葉で繋がないと、多分何種類かの計画にまとまったような格好になっていくんだらうと思っている。是非お願いしたいのはこの3つを、どんな格好になるかわからないが、言葉で繋いでイメージできる、今地域包括ケアシステムに一生懸命邁進している人たちは、こういう中で私は地域包括ケアシステムに関わっているが、地域福祉にこんな意味で関わり、地域共生社会の実現に役立っているんだと意識できる、簡単でいいが、そういう関係性がわかる文言がないと言葉だけになってしまう気がするため、お願いしたい。そういうふうにしていただけるとわかりやすいのではないかな。

【阿部会長】

今、庄子委員もいたところで出てくる質問、声ということで言われたが、よくある質問に対する答えというのか、地域福祉と地域包括ケアシステムの構築ということと、地域共生社会の実現、この三点をどんなふうに理解をして、仙台市では地域保健福祉計画を策定しにかかっているのかということについて、次回の分科会までに、そこを用意しておいてほしいという要望として受け止めていただけてよろしいかな。

【庄子清典委員】

はい。

【阿部会長】

私も関わっていて、すぐに答えをとられると大変困るので、事務局と一緒にあって、あるいは

皆さんからお知恵をお借りして、整理をさせていただきたいと思う。事務局の方から何かあるか。

【地域福祉部長】

答えというよりは議論をしていただくための材料というかたちで揃えさせていただきたい。結論ありきではないと思っているため、この審議会の中で議論を深めていくというかたちで、そういった議論できる材料と素材を揃えていくという感じでもよろしいか。

【庄子清典委員】

もう少しである。国は地域包括ケアの上位概念に地域共生社会があると言っている。それはどういうことなのか。それからこれまでずっと皆が一生懸命進めてきた地域福祉の充実というか、そういうものといった言葉上どんな関係にあって、仙台市として、決める必要はないが、こんなイメージで進めていきたいので、議論しましょうというものがあつたらいいのではないか。これは議論を重ねていきながら、会長がおっしゃった 2 月位に皆でそうだねというようなものになっていけたらいいのではないかという感じである。

【地域福祉部長】

国が作っているイメージ図はあるが、それを仙台市としてどう理解してどう進めていくかというところが、おそらくこの計画の肝になる部分であろうと思っている。冒頭会長のご挨拶にもあつたが、次期総合計画の中でも地域の問題というのが議論されている。今後仙台市において地域とはどうあるべきか、どう接していくべきものか議論されているので、この審議会だけで決める、決められることなく、上位計画である総合計画との調整も行いながら、この審議会としてのまとめができる議論の材料として、できる限り揃えてみたいと思う。

【阿部会長】

総合計画の議論でも、今庄子委員が言われたようなやりとりがあつた。自分のことに関わっていることなので申し上げてかまわないと思うが、せっかくこれから作る総合計画なので、今使われ始めた「地域共生社会の実現」というのをに入れて出しておいたほうがいいんじゃないか、むこう 10 年間にわたる計画なのでと言ったところ、今地域包括ケアシステムがどんどん進んできているのでまぎらわしい、という意見が出て、困ったなということがあつた。それからもう一つ申し上げたいのは、考え方を整理すると言うことと現実がどうなっているか、制度や施策、あるいはこの計画が。そのため考え方としての整理をとりあえずしてほしいと受け止めさせていただく。一旦 2 月には、その考え方の案として示させていただきたいと思う。この計画が策定されるまでの間に、考え方も皆さんの議論の中でシェイプアップしていつてもらえたらいいかなと思っている。私にとっても難しい宿題だなと思っている。少し事務局と、繰り返しになるが、皆さんからいろいろな声、ご意見をいただいて、考え方を整理させていただきたい。他になにかあるか。

【庄司健治委員】

犯罪被害、犯罪防止の推進の計画について。先ほど議論していただくメンバーとして保護司、保

護観察所、弁護士などという話があったが、現場で再犯防止のためのお世話をしているダルクとか、ダルクとは薬物乱用者が再犯しないための共同生活をしているところ、あるいは東華会みたいなところ、ここは住居もない、就労先もない、一時そこでそのまま訓練を受けて就労するとか、あるいは警察とか、あるいは精神に関する、犯罪に関する大学の先生とか、お医者さんにも入っていただくことによって、現場のいろんな方の意見を聞いて、計画を作成することで充実した計画ができるのではないか。事務局は考えていると思うが、あえて述べさせていただく。

#### 【阿部会長】

事務局も十分もう含んでいるのではないかとおっしゃいましたが、新しい再犯防止というテーマが入ってくるので、その辺のところへの専門家あるいは実践者の意見を聞けるような体制をとっていただいたほうがよろしいのではないかという提案だった。

#### 【社会課長】

関係機関との意見交換と書かせていただいているが、まだ具体的にスタートしていない状況で、仙台の保護観察所で関係機関に声掛けをしていただきながら、私どもも入り、議論を進めていくということとしている。先ほども申し上げたが、宮城県の計画策定に向けた議論などもあるので、そちらで出ている意見や関係者などの意見にも耳を傾けながら、中身について検討してまいりたい。

#### 【渡邊礼子委員】

今まとめてきたところで、元に戻すのが申し訳ないと思いながら手を挙げさせていただいた。先ほど折腹委員から、成年後見制度利用促進計画の話があった時にすぐに手を挙げればよかったが、別紙1の左側の「ケ」に、「市民後見人等の育成や活動支援、判断能力に不安がある者への金銭管理」とあり、多分これはまもり一歩の話だと思うが、市民後見人の話をちょっとさせていただきたい。みなさんの中には市民後見人をご存じないかたもいらっしゃるのではないかと思います。まだまだ宣伝が足りないのだが、市民後見人を養成してからちょうど10年になる。今現在受任している方が9人くらい、養成講座を受けているが、まだ受任していない人たちが16人くらいいる。実際に市民後見人を受任している方たちは、被後見人に対して、身上監護の部分の方をすごく重要視して関わっている。もちろん生活保護や財産管理なども少しさせていただきながら、身上監護の部分においては皆さん本当に一生懸命やられている。すでに5、6人の方は亡くなられて、亡くなられたときの死後の処理なども、市民後見人が葬儀社を探したり、お墓にお参りに行ったりお寺を探したりとかいうかたちでやられてる方たちが、すでに終わられて、何もしていないという方たちがいる。そういう人たちがいる中でさらに、市民後見人の育成、養成をするというところがとても重要な部分だと思う。なかなか専門後見になると、やはり財産管理の方が多く、身上監護の部分においてはなかなかいきにくいというか、面倒を見るのも時間がないという部分があるかと思う。本当に市民後見人、今現在受任している人たちは月に1、2度、被後見人のところに行き、話をしたり財産管理をしたり状況を見たりとかいうようなかたちで活動をされている。是非、今16人、養成講座を受けて3年くらいになるが、受任していない人たちのために受任の選定、またはその協議会などで発表させていただきながら、市民後見人のことをもう少し市民の皆さんに、わかっていただけたらいいと思う。

日常生活支援事業のなかで、要支援 1、2 の本当に介護難民になりつつあるような人たちがたくさんいる。一人暮らしで財産を持っておらず、後見人も付けられなく、施設にも入りたいのに入れない、契約することさえもできないという人たちがやはり地域にいる。そういう人たちのために市民後見人がいるっていうことを少しでも報告できたらいいのかなと思うので、ぜひこの部分の検討を、課題を入れながら計画を作っていただきたい。要望である。

【阿部会長】

アクセントをおいた要望だが、今回の計画に中に取り込んでいくということを応援するご意見をいただいたことでよろしいか。では他にはよろしいか。それでは、今日のところは報告ということであったが、いくつか報告させていただく中で、これからの計画策定に向けての要望をいただいたということで、要望を取り入れながら事務局の方で計画策定へのこれからの歩みを進めていただければと思う。よろしく願いしたい。

②コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の取り組みについて

・資料 3 に基づき仙台市社会福祉協議会より説明

<質疑応答>

【釣舟委員】

先ほど質問させていただいたので。ちょっと短絡的な理解なのだが、地域の活動をされている方、民生委員や地域包括支援センターなどの後ろ盾というか下支えというか、そういう人たちと共に活動する、というようなイメージが私、今強かった。それがいいとか悪いとかという話では当然ないが、そういう理解でよろしいか。

【市社会福祉協議会】

そういう面があると思う。地域で活動されている方や専門の相談支援機関などに対して、伴走的にサポートをさせていただいているというかたちになるかと思う。

【釣舟委員】

ありがとうございます。

【阿部会長】

イメージとしてはだいぶ前よりもつかんでいただけたか。

【釣舟委員】

昔 NHK でやっていた、あのイメージがどこかに残っていたんだと思う。戸別に入っていき「開けて～」と言ってひきこもりを引っ張り出す、そんなイメージだった。

【阿部会長】

サイレント何とかというやつですね（「サイレント・プア」）。はい、折腹委員。

#### 【折腹委員】

体制整備事業の中で、第 2 層の生活支援コーディネーターの配置が各地域包括支援センターにされて、第 1 層の配置を仙台市で今どこに、ということが課題になっていると思うが、そういう一面とこの包括的支援体制のモデル事業とはどこかでリンクするのか、あるいは全く別の話なのか。

#### 【社会課長】

今のモデル事業の話の中で出てきた、地域の支援というところと個別のケースの支援というところが、実はセットで行っていくことが重要だという話もあり、その中で第 2 層の生活支援コーディネーターの話にも関わってくるのだと思うが、第 1 層をどうするかと考えた時に、もしかすると過去の議論でもあったかもしれないが、切り分けというのはなかなか難しい。高齢者のみではなく複合的な課題を抱えた方々が地域にたくさんいらっしゃる中で、地域包括支援センターが高齢者に特化したかたちの支援をされているということではあるが、寄せられる相談自体はいろいろな課題をもったケースが多いということもあるということで、大きく第 1 層で求められている役割と、実はこういったかたちで仙台市の社会福祉協議会が求められている役割というのは、近い、かなり密接な部分があるのではないかと私どもの方でもとらえている。実際どういうかたちで職員を、CSW を配置していくかということは、まだ確定的に申し上げられない段階であるが、ちょっと切り離せない部分があるという認識のもとで議論を今行っている最中である。明確なお答えはできないが、この部分は非常に密接につながっている。であれば体制としても切り離すことはなかなか難しいのではないかとすることは庁内、それから関係機関との共有はできていると思っている。明確な答えではなくて申し訳ないが。

#### 【阿部会長】

地域共生社会の実現と地域包括ケアシステムの構築、前に質問がでたが、そういう問題と非常に裏表の問題だと思うので、今明確に答えが出せないというのはその通りだと思うので、ご理解いただきたい。整理していかなければいけないということは間違いなことだと思うが、時間や歴史の経過の中で動いてきているものが、同時にスタートしないで片方が早く始まり、あとから別のものが始まってきているという、2 つが走っている状況なので大変整理をつけにくくなっていることなのかなと思う。私からも事務局を少し応援しておきたいが、これは難しいと思う。ただ考え方としては整理させてみたいと。他にはないか。

#### 【釣舟委員】

一言だけ余計なことを言ってよいかな。そのあたりからだと思うが、学校でアルバイトをしているが、学生にどこに就職したいかという「社協」という生徒が増えている。社協だと子供からお年寄りまで関われるからと、そういう理解。まさに CSW の地域支援活動ということの、正解の浸透なのか間違った浸透なのかわからないが、そんな状況にあるので、とてもその CSW のあり方というものに興味ある。

【阿部会長】

私も仙台市を応援したいと申したのは、先ほどの NHK テレビのモデルの方が大変有名な方で、私も仙台市でその方の講演、研修とか三回ほど聴かせていただいたが、今回のモデル事業を進めていただいた報告を聞いて、仙台市も負けないうところにきているな、と思った。これからは大阪ではなくて宮城県の仙台市がこういうことで支援されている、ということが取り上げられていくとよいし、そういうのが見えてきたなと思った。私も興味深く関わらせていただいた。ありがとうございました。

(5) その他

なし

(6) 閉会

以上